

Medi-Wing

医学生と民医連の情報誌
全日本民主医療機関連合会

戦争法の廃止を求める2000万人署名 医系学生特別号 2016 SPRING

編集／全日本民主医療機関連合会

発行日／2016年3月15日

〒113-8465 東京都文京区湯島2-4-4平和と労働センター7F

TEL(03)5842-6451(代表)

<http://www.min-ren.gr.jp>

E-mail:ishi@min-ren.gr.jp

発行／株式会社保健医療研究所

〒113-8465 東京都文京区湯島2-4-4平和と労働センター8F

TEL(03)5842-5656

医系学生が発信する 戦争No! 平和・民主主義Yes!

戦争法廃止 2000万人署名やってます



写真:Duits.co/アフロ

2000
万人

2015年11月3日～2016年4月25日

戦争法廃止を求める統一署名

衆議院議長 大島理森様
参議院議長 山崎正昭様
内閣総理大臣 安倍晋三様

戦争法の廃止を求める統一署名

2015年9月19日に参議院で「強行採決」され、「成立」した「平和安全保障関連法」は、憲法9条が禁じる国際紛争解決のための武力行使を可能とするもので、憲法違反であることは明らかです。したがって、「平和安全」の名にかかわらず、その内容はまさしく戦争法です。また、憲法解釈を180度くつがえた閣議決定に基づいた違憲の立法は、内閣と国会による立憲主義の否定であり、断じて認めるることはできません。

この戦争法が発動されれば、日本は海外で戦争する国になり、自衛隊は海外で殺し殺されることになり、日本自体が武力紛争の当事者となって、「平和安全」とはまったく逆の事態を招くことになります。

戦争法に対しては、国会審議の段階で、憲法の専門家をはじめ、さまざまな分野の人びとから反対の声が上がり、世論調査でも世論が政府の説明は不十分と答えています。全国の人びとの強い反対の声を国会内の数の力で踏みにじった採決は、主権在民と民主主義を壊す暴挙であり、正当性を欠くものです。

以上の趣旨から、次の事項について請願します。

【請願事項】

一、戦争法である「平和安全保障関連法」をすみやかに廃止してください。

二、立憲主義の原則を堅持し、憲法9条を守り、いかしてください。

氏名	住所

共同よひかげ 戦争をさせない1000人委員会・解釈で憲法9条を壊す実行委員会／戦争する国づくりストップ憲法を守りたいかす共同センター／安倍教育政策NOネット／安倍政権にNO／東京地域ネットワーク／安全保険関連法に反対する学者の会／安全保障関連法に反対する医療介護福祉関係者の会／安保関連法に反対するママの会／NGO非戦ネット／沖縄一帯反戦地主会／横浜ブロック／女の平和／改善問題対策法律家6団体連絡会／原発をなくす全国連絡会／国連人権勧告の実現を実行委員会／さようなら原発1000万人アクション／自由と民主主義のための学生緊急行動(SEALDS)／首都圏反原発連合／戦時性暴力問題対策会議／宗教者部門／信者国会前大集会／脱原発めめず女たちの会／止めよ！辺野古埋立て／国会包囲実行委員会／日韓つながり直しキャバレー2015／日本軍慰安婦問題解決全国行動／反貧困ネットワーク／秘密保護法廃止／実行委員会／ネット民法改正情報ネットワーク／立派モグラシの会／全国労働組合連絡協議会／全国労働金庫労組連合会

呼びかけ 戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

TEL 03-3526-2920(1000人委員会) 03-3221-4668(9条壊すな!実行委員会) 03-5842-5611(憲法共同センター)

取り扱い店

全日本民主医療機関連合会

！「民主主義ってなんだ」「これだ!」(SEALDS)

憲法はそもそも国民の義務をさだめたものではない。国民が権力者による恣意的な政治を禁じ、その手をしばらためのものだ。昨年秋、多くの学者が戦争法の違憲性を指摘した。空前の規模の人々が国会前を埋めつくした。

国会を取り巻いたSEALDSの学生たちは、「民主主義ってなんだ!」「これだ!」と叫んだが、その声は安倍さんには届かなかった。この国の民主主義は危機に瀕している。法律が成立した今、民主主義を取り戻すFirst Actionは、戦争法を廃止することだ。

！「覚えておくといい、理想主義者は人類の進歩における現実主義者なのだ」(マイケル・マーモット世界医師会会长が紹介した言葉)

「憲法9条まもれとか社会を変えようとかって、結局理想主義じゃない?」「デモや署名で社会は変わらない」と思う人も多いと思う。そうした人は、世界医師会のマイケル・マーモット氏が会長就任の挨拶のなかで紹介しているこの言葉(注*)を噛みしめてみてほしい。

慶應大学の小熊英二さんは『社会を変えるには』(講談社現代新書)の中で、社会を変えるには、「自分が変わること。自分が動くこと。他人とともに社会を作ること」と語っている。

！「私たちが、究極的に守りたいものは天から与えられためいめいの命です」(日野原重明医師)

戦争法は、日本という国が、海外で一人も殺したことのない国から、戦争をする国へと変わっていくことだ。今年105歳になる日野原重明医師(聖路加国際病院)は、戦争法案の成立を前にした昨年7月、法案に反対する医療関係者のつどいに次のようなメッセージを寄せた。「人のいのちの重要性は、医師が一番よく知っています。医師こそ平和の最前線に立って、行動すべきと私は考えています」と。医学・医療を学ぶ私たちだからこそ「医師・医療者の使命」を考え、自分自身の、主権者としてのActionに踏み出すことが必要ではないか。

(注*)健康の社会的決定要因(Social determinants of health: The solid facts)などを提唱してきたマイケル・マーモット氏が世界医師会会长に就任した際の演説は以下のサイトで日本語訳を読むことができます。健康の社会的決定要因など、命の格差をなくす医師の使命にもふれています。<http://dl.med.or.jp/dl-med/wma/Sir-Michael-Marmot-Inaugural-Speech.pdf>

